

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■水稲 飼料用米品種研修会で情報提供

J Aいび川では、令和7年から導入を予定している飼料用専用品種「あきだわら」の実証栽培を行っている。

8月28日、J Aいび川が大野地区飼料用米「あきだわら」研修会を開催し、飼料用米生産者等14名が出席した。農業普及課は、昨年の実証ほの生育調査結果と令和6年の生育経過と栽培留意点について説明した。その後、大野町内の実証ほの視察を行い、意見交換を行った。

今後は、実証ほの収量調査を行い、揖斐地域の「あきだわら」栽培暦を作成し、多収の特徴を活かせるよう栽培支援を行う。



【研修会の様子】

### ■柿 柿生産者のGAP内部評価

8月9日、大野町かき振興会員で「ぎふ清流GAP評価」を予定している生産者に対して、内部監査及び受評に向けた支援を行った。大野町かき振興会ではこれまでに農場評価6名と組織評価を受けており、今後も振興会技術部会員を中心に毎年度農場評価を受ける予定である。

今回、過去の農場評価で指摘を受けた部分を中心に農薬、機械、燃料保管場所などを確認し、改善事項について意見交換を行った。

農業普及課は、今後もGAPの取り組みについて支援を行う。



【現地確認の様子】

### ■加工業務用キャベツ 定植開始

J Aいび川管内では、土地利用型農業の担い手が水田を活用して加工業務用キャベツ生産に取り組み、今年度は約7haの作付けを予定している。

8月上旬から定植が始まり、複数の品種を作付けすることで、収穫期間の延長や収穫作業などの労働作業を分散させている。

今後は、定期的に農業普及課とJ Aいび川で連携を図りながら、現地巡回を行うとともに、生育量や病虫害発生状況の把握し出荷量増加に向けて支援を行う。



【定植後のキャベツ畑】

### ■金ごま 揖斐金ごま生産部会栽培研修会

8月6日、現地ほ場及び揖斐総合庁舎にて揖斐金ごま生産部会の栽培研修会を開催し、16名の部会員が出席した。

現地研修では、ほ場の栽培者から栽培概要を説明し、熱心な質疑応答と情報交換を行った。

室内研修では、皆で昨年度の反省点や生育診断に基づく追肥の判断、収穫適期の判定、乾燥調製の方法などを討議した。農業普及課から今後の栽培管理について、助言を行った。

今後、農業普及課は酸価を低く保つ乾燥条件について検証し、品質向上に向けて支援を行う。



【現地検討の様子】

## ■花き（フランネルフラワー） 実証ほの害虫発生状況調査

フランネルフラワーは、ハダニ類などの微小害虫などの被害が課題となっており、7月から化学農薬使用量低減に向けた実証ほを設置している。

8月16日、天敵（カブリダニ）の効果を検証するため、ハダニ類の発生状況について調査を行った。ハダニ類の発生は見られず、天敵導入の効果が表れていた。

農業普及課は、今後も定期的に発生状況を調査し、化学農薬使用量低減に向けた栽培の支援を行う。



【調査の様子】

## ■茶 青空教室～労働安全の更なる強化～

8月16日、（農）桂茶生産組合が取り組むA S I A G A Pの規定に基づく青空教室が開催された。

農業普及課からは、今後の病虫害防除、茶園管理について資料に基づき説明を行った。揖斐消防組合消防本部からは、熱中症予防講和とともに心肺蘇生法の実習を行った。

今後もG A Pへの取り組みとともに、役員を中心とした組合活動による産地力を維持継続できるよう支援を行う。



【心肺蘇生法の実習】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■薬草 春日地域の薬草に関する意見交換会

7月31日、いび薬草の里プロジェクト推進協議会が春日地域の薬草に関する意見交換会を春日振興事務所で開催し、薬草生産者と関係機関等28名が出席した。事務局から「いび薬草の里プロジェクト」の概要説明の後、皆が生産状況や栽培に関する課題等について話し合った。今後の課題として、生産体制の見直し、加工工程の省力化、経営安定等が挙げられた。

今後、岐阜薬科大学が現地調査を行い、その結果から地域にあった品目と生産体制の整備を行う予定である。

農業普及課は、協議会と連携し、今後行われる実態調査や栽培実証などに向けて支援を行う。



【意見交換会の様子】